

# 地域保健

5  
2020

●特集

## 健康経営を地域と企業の コラボレーションで





イラストレーター・スズキトモコ

爽やかな新緑の季節。いつもの電車の車窓から異国の風景を想像して旅気分はいかがですか。

<http://www.tomo-com.com>

6

【特集】

# 健康経営を地域と企業の コラボレーションで

## 8 【座談会】 地域・職域連携と健康経営

- 出席者 ○津下一代さん（あいち健康の森健康科学総合センター）＝司会  
○土屋厚子さん（静岡県健康福祉部）  
○高森洋子さん（大分県南部保健所）  
○室山孝子さん（横浜市健康安全部）

22 健康経営の本質 岡田邦夫（特定非営利活動法人 健康経営研究会）

26 幸福学から見る健康経営 前野隆司（慶應義塾大学大学院）

30 人を大切にする健康経営 坂本光司（人を大切にする経営学会）

34 市町と協働で「しずおかまるごと健康経営プロジェクト」を推進《事例 静岡県》  
土屋厚子（静岡県健康福祉部）

40 協会けんぽとの地域・職域連携で健康経営を推進《事例 大分県》  
藤内修二（大分県福祉保健部）

44 健康経営支援から健康関連サービス創出まで幅広く展開《事例 横浜市》  
春日潤子（横浜市健康福祉局）

48 健康経営の概要と動向 飯森健一（経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課）

2 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! ▶ 荒川久美さん（神奈川県平塚保健福祉事務所保健福祉課）

66 ピープル ▶ 梶原厚子さん（株式会社スペースなる 代表）

72 寄稿 ▶ 言語聴覚士による地域共生の活動  
橋田祐理子（NPO 食べる力・円、言語聴覚士）

76 活動報告 ▶ 長期的な国際保健活動から見た保健活動の方向性  
吉田和樹（医療創生大学看護学部）ほか

78 ニュース

90 情報BOX

96 次号予告／奥付

### 連載

52 【新連載】高齢者の「通いの場」づくりの取り組みとその効果  
《第1回》／細川陸也ほか

60 【新連載】ゲーム障害とスマホ依存—地域保健にできること  
《第1回》／磯村毅

62 虐待予防は母子保健から《第7回》／鷲山拓男

70 ESSAY 国際保健《第37回》／松田正己

82 保健師のための閉読ケア《第88回》／藤本裕明

86 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第73回》／中臣昌広



あらかわ・くみ

# 荒川久美さん

● 神奈川県 平塚保健福祉事務所 保健福祉課

台風のとくにいただいた  
「ありがとう」の言葉。

保健師はとても大事な仕事だと実感しました。



平塚市総合公園の平塚総合体育館前にて。わんぱく広場やふれあい動物園、日本庭園などもあり、スポーツ施設も充実している

文=太田美由紀 (ライター) 写真=神保 誠



# 健康経営を

## 地域と企業の コラボレーションで

健康経営は従業員の健康管理を経営的な視点から戦略的に実践することとされる。日本健康会議が選定する「健康経営優良法人」は年々数が増え、「健康経営優良法人2020」は大規模法人部門1480法人、中小規模法人部門4816法人となった。約10年ぶりに改訂された地域・職域連携推進ガイドラインでは、連携の目的を明確にするために健康経営にスポットを当てており、今後は行政保健師が地元中小企業の健康経営に関わる機会が増えると思われる。

健康経営は企業にとって生産性向上や企業のイメージアップにつながり、従業員にとっては個人の健康度を高め、疾病を予防し、職場の快適さや満足感を高めてくれる。一方、地域保健が地元企業の健康経営と関わることで、在住者や在勤者の健康課題を把握し、将来必要となる健康課題を予測した対策を検討できる。地域・職域双方にとっては資源の有効活用につながる。行政保健師が関わる健康経営は主に中小企業が対象だ。「人が資本」の中小企業と、高齢者など健康弱者を抱える地域保健とのコラボレーションは、どのような展開をみせるのだろうか。5月号では健康経営の本質を考えるとともに、地域・職域連携による健康経営の具体的な姿を探っていく。



---

P 8 座談会  
地域・職域連携と健康経営



▲津下一代さん



▲土屋厚子さん



▲高森洋子さん



▲室山孝子さん

- (出席者) ◎津下一代さん (あいち健康の森健康科学総合センター) =司会  
◎土屋厚子さん (静岡県健康福祉部)  
◎高森洋子さん (大分県南部保健所)  
◎室山孝子さん (横浜市健康安全部)

---

P22 健康経営の本質  
◎岡田邦夫 (特定非営利活動法人 健康経営研究会)

---

P26 幸福学から見る健康経営  
◎前野隆司 (慶應義塾大学大学院)

---

P30 人を大切にする健康経営  
◎坂本光司 (人を大切にする経営学会)

---

P34 市町と協働で「しずおかまるごと健康経営プロジェクト」を推進  
《静岡県における健康経営推進の取り組み》  
◎土屋厚子 (静岡県健康福祉部)

---

P40 協会けんぽとの地域・職域連携で健康経営を推進  
《大分県における健康経営推進の取り組み》  
◎藤内修二 (大分県福祉保健部)

---

P44 健康経営支援から健康関連サービス創出まで幅広く展開  
《横浜市における健康経営推進の取り組み》  
◎春日潤子 (横浜市健康福祉局)

---

P48 健康経営の概要と動向  
◎飯森健一 (経済産業省ヘルスケア産業課)



## 梶原厚子

さん

●株式会社スペースなる 代表

目指すものはインクルーシブケア！  
医療デバイスを必要とする重篤な状態でなくても、訪問看護を必要とする子どもはたくさんいます

近年医療の進歩によって、重い疾患でも命を救われる子どもが増えている。しかし、こうした医療的ケア児が退院して家庭で生活するには、家族の負担も大きい。そんな状況下、梶原厚子さんは、長年医療的ケア児の訪問看護に携わってきた。そして、多くの現場で経験を積んだのち、株式会社スペースなるを設立し、地域との連携の中で子どもや家族が生き生きと暮らせるための支援を続けている。そんな梶原さんに支援への思いを伺った。

### 救急医療の現場を経験し 訪問看護の必要性を認識

梶原さんが看護師になったのは、今から38年前。ちょうど救急救命センターが全国に配置されたころだった。新しい医療の現場で働きたかった梶原さんは、最初の職場として救急医療の現場を選択する。しかし、そこで働いているうちに、ある疑問が頭をもたげてきたのだという。

「1〜2年目のときは、救急で運ばれてき

た患者さんが、命を取り留めて退院できると、ただ単に『よかった!』と思っただけでした。でも、3年目くらいになると、命は助かったものの、認知症や障害を持った状態で退院していく患者さんを見て、『このまま家庭に帰ることになって本当によかったのかしら?』と思うようになりました」

梶原さんが感じたのは、「この先は、実際に患者さんの家に行ってみないと分からないかもしれない」ということだった。当時は、まだ訪問看護ステーションというしくみはなかったが、訪問看護に大きな関心を抱くようになったきっかけが、この急性期医療の現場にあったのではないかといい。

その後、ご主人の仕事の関係で、愛媛県に転居した梶原さんは、愛媛大学医学部付属病院に勤務。しかし、2人のお子さんを妊娠、出産することになり、しばらく仕事から離れることになる。そして、再び仕事に戻るときに決意したのが、「訪問看護師になろう」ということだった。

●取材文……白井美樹(ライター)

特集

## どこからが体罰か

—体罰等によらない子育て推進における母子保健の役割

- ◎座談会 「なぜ体罰はいけないか」  
小児期逆境体験が及ぼす影響と虐待予防

【出席者】 高祖常子さん (NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク)  
※五十音順 中板育美さん (武蔵野大学) 司会  
福丸由佳さん (白梅学園大学)

- ◎「体罰等によらない子育て推進」 厚生労働省 子ども家庭局 虐待防止推進室
- ◎マルトリートメント予防モデル 大阪の取り組み 友田明美 (福井大学)
- ◎逆境的小児体験 ACE 疫学研究から 伊角 彩 (東京医科歯科大学)
- ◎スウェーデンに学ぶ 子育てに求められる社会の覚悟 大日向雅美 (恵泉女学園)
- ◎子どもの人権 森 保道 (森・石光法律事務所)
- ◎事例1 都道府県の取り組み 京都府 (予定)
- ◎事例2 市町村の取り組み 枚方市 (予定)

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! 桑本美智代さん (京都府中丹東保健所)

ピープル 西村貴好さん (一般社団法人日本ほめる達人協会)

次号以降は新型コロナウイルスに関する記事を優先して掲載します。ぜひ情報をお寄せください。

※新型コロナウイルスの影響により変更になる場合がございますので、ご了承ください。

## 地域保健

令和2年 5月号

令和2年5月1日発行/隔月(奇数月)1回1日発行  
発行人 菅 国典  
制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22  
株式会社 東京法規出版  
振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】 TEL 03-5977-0300  
FAX 03-5977-0385  
ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】 TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン=新海妙子  
◎印刷・製本=(株)上野印刷所  
◎編集長=須賀健次  
◎編集員=松岡康子

本誌に掲載された著作物の  
複写・転載等の許諾権は、  
株式会社東京法規出版が保  
有しています。

## バックナンバー紹介

2019年1月号

特集「**刑務所と地域との連携 保健師は健康課題を担えるか**  
—女子受刑者の問題を中心に—

刑務所にいる人の多くは、必要な支援につながれず、社会から孤立した人たち。地域に帰ってくる住民に、保健師はどんな支援をすればよいかまとめる。

2019年3月号

特集「**胎児性アルコールスペクトラム障害を防ぐ**

妊婦のアルコール摂取により胎児に影響が出る胎児性アルコールスペクトラム障害（FASD）のわが国における現状と問題点について取り上げる。

特別座談会「**地域保健の未来を拓く**  
—厚生労働省での経験から

出向・研修生という形で厚生労働省で働く、地方自治体の保健師5人が自らの経験と今後の展望について熱く語る。

2019年5月号

特集「**新時代「令和」の保健師 8つの論点**

令和の幕開けにあたり、保健師に関係する8つの論点を取り上げて展望を示す。内容は総論および①キャリアパスとキャリアラダー②委託事業③地区担当制と業務分担制④統括保健師⑤多職種連携⑥家庭訪問⑦プレゼンテーション⑧地域共生社会。

2019年7月号

特集「**災害時に配慮を要する在宅療養者への支援**  
—難病等で医療的ケアが必要な人を中心に—

地震や豪雨などの自然災害が頻発している。災害時に医療的ケアが必要な人に保健師がどのような支援をすればよいかをまとめた。

お申し込みは

(株)東京法規出版 地域保健編集部

FAX : 03-5977-0385

※バックナンバー (2016年3月号まで) 857円+税+送料154円  
の価格 (2016年5月号から) 1,370円+税+送料154円

2019年9月号

特集「**性暴力被害者支援 —現状と課題**

これまであまり深く語られることがなかった性暴力の被害者支援について、トラウマケア、感染症や妊娠・出産、児童虐待、DVなど、保健師が深く関わる部分を中心に取り上げる。

2019年11月号

特集「**高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けて**

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の全体像とともに、通いの場、国保データベース、フレイルの概念などのトピックを解説。自治体や後期高齢者医療広域連合の好事例も紹介する。座談会では一体的実施における保健師の役割を中心に考える。

2020年1月号

新春座談会「**保健師の業務を効果的・効率的に進める**  
—統括保健師は何をすべきか

保健師の業務を効果的・効率的に進めるために、行政経営の視点などを参考に、統括保健師の果たすべき役割を考える。

特集「**子どもの自殺を防ぐ**」—10代を中心に  
全体の自殺者数が減る中で10代は横ばいもしくは増えている。その実態と対策。

2020年3月号

特集「**認知症施策推進大綱で保健師の地域活動はどう変わる?**

共生と予防を車の両輪とする「認知症施策推進大綱」。座談会や事例などを通して、大綱が保健師の役割にどんな影響があるのか読み解いていく。

特別座談会「**厚生労働省での学びを地域に**  
—気づき、抱負、今後のビジョン

全国の自治体から出向や研修派遣で厚生労働省に来ている保健師たちが集い、仕事のやりがいや新しく学んだことなどを自由に語り合う。

## 『地域保健』購読のご案内

- 年6回、隔月〔奇数月〕1日発行
- B5判、総100頁（本文96頁、表紙4頁）
- 価格 1冊あたり 1,370円+税、送料154円  
年間購読 《公費前納および個人》7,990円（税込、送料弊社負担）  
年間購読 《公費後納》8,878円（税込、送料弊社負担）  
※書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>